第３章　高等学校でのキャリア教育の授業開発

1　各教科の目標と教科活動におけるキャリア教育の取組み

（1） 国語

① 教科の目標

・国語を適切に表現し的確に理解する能力を育成し、伝え合う力を高めるとともに、思考力や想像力を伸ばし、心情を豊かにし、言語感覚を磨き、言語文化に対する関心を深め、国語を尊重してその向上を図る態度を育てる。

（出典：文部科学省「高等学校学習指導要領」2009年3月）

② キャリア教育の取組み

・国語科では、実生活で生きて働き、各教科等の学習の基本ともなる国語の能力を身に付けることを重視している。とりわけ高校では、従前、社会人として生きるために必要とされる国語の能力の基礎を身に付けることを大切にしてきた。

・国語科の指導は、生徒がキャリアを形成していくために必要な能力や態度を育成するための基盤を身に付けさせることでもある。

「基礎的・汎用的能力」の育成に関連する「国語総合」の指導事項

領域／能力	人間関係形成・社会形成能力	自己理解・自己管理能力	課題対応能力	キャリアプランニング能力
A 話すこと・聞くこと	・　目的や場に応じて，効果的に話したり的確に聞き取ったりすること。 ・　課題を解決したり考えを深めたりするために，相手の立場や考えを尊重し，表現の仕方や進行の仕方などを工夫して話し合うこと。	・　話したり聞いたり話し合ったりしたことの内容や表現の仕方について自己評価や相互評価を行い，自分の話し方や言葉遣いに役立てるとともに，ものの見方，感じ方，考え方を豊かにすること。	・　話題について様々な角度から検討して自分の考えをもち，根拠を明確にするなど論理の構成や展開を工夫して意見を述べること。	・　話題について様々な角度から検討して自分の考えをもち，根拠を明確にするなど論理の構成や展開を工夫して意見を述べること。（再掲）
B 書くこと	・　課題を解決したり考えを深めたりするために，相手の立場や考えを尊重し，表現の仕方や進行の仕方などを工夫して話し合うこと。	・　優れた表現に接してその条件を考えたり，書いた文章について自己評価や相互評価を行ったりして，自分の表現に役立てるとともに，ものの見方，感じ方，考え方を豊かにすること。	・　対象を的確に説明したり描写したりするなど，適切な表現の仕方を考えて書くこと。	・　論理の構成や展開を工夫し，論拠に基づいて自分の考えを文章にまとめること。
C 読むこと	・　文章に描かれた人物，情景，心情などを表現に即して読み味わうこと。 ・　文章の構成や展開を確かめ，内容や表現の仕方について評価したり，書き手の意図を捉えたりすること。	・　幅広く本や文章を読み，情報を得て用いたり，ものの見方，感じ方，考え方を豊かにしたりすること。	・　文章の内容や形態に応じた表現の特色に注意して読むこと。 ・　文章の内容を叙述に即して的確に読み取ったり，必要に応じて要約や詳述をしたりすること。	・　幅広く本や文章を読み，情報を得て用いたり，ものの見方，感じ方，考え方を豊かにしたりすること。（再掲）

（資料出所：文部科学省「高等学校キャリア教育の手引き」2011年11月）

（２）地理歴史

① 教科の目標

・我が国及び世界の形成の歴史的過程と生活・文化の地域的特色についての理解と認識を深め、国際社会に主体的に生きる民主的、平和的な国家・社会の一員として必要な自覚と資質を養う。

（出典:文部科学省「高等学校学習指導要領」2009年3月）

② キャリア教育の取組み

・地理や歴史の知識・概念・技能を習得することで、社会的事象を捉えることができる。自らが国家・社会の形成者であるという視点に立って思考・判断することは、自己のキャリアの形成につながる。

・社会的事象を多面的・多角的に捉える力、直面する課題を探究するための資料の収集と分析・考察、その過程や結果を表現する力も、キャリア育成を支える要素となる。

・主体的に社会に参画する資質や能力を育成することが各教科において重視される。

【高等学校における地理歴史科の指導内容とキャリア教育－「基礎的・汎用的能力」を視点として】

分野／能力	人間関係形成・社会形成能力	自己理解・自己管理能力	課題対応能力	キャリアプランニング能力
地理	・ 課題追究的な学習の中で自分の考察した意見を相手に的確に伝える。 ・ 他者の多様な意見を受け入れて考えを深める。また，疑問に思うことを質問する。 ・ 博物館・資料館などの調査・見学活動を通し，地域の人々と交流する。	・ 地理的な見方や考え方を踏まえ，諸事象の空間的な規則性や傾向性を捉える。 ・ 諸地域を比較し関連付け，一般的共通性と地域的特殊性の視点から捉える。	・ 収集した地理情報を目的に合わせて選択・処理し，地域性を読み取り，比較し，関連付け，変容を捉える。 ・ 現代世界が抱える地球環境問題などの諸課題を，地域性を踏まえて考察する。	・ 地理的事象の背景を地域の枠組みで捉え，環境条件や他地域との結び付き，人間の営みに着目し自己の役割を追究する。 ・ 地理的事象の変容を捉え，地域の課題や将来像について考える。
歴史		・ 諸地域世界の形成，交流と再編，結合と変容，及び一体化の過程を政治・経済・社会・文化など幅広い見方で捉える。 ・ 日本列島内の地域的差異を，地域の特色や相互の関係性などの理解を通し，地域社会と国家の歴史的な関わりから捉える。	・ 科学技術の利用の在り方や宗教・民族を巡る紛争などの諸課題を，歴史的背景を踏まえて考察する。 ・ 年表・地図の他にも文献資料や図像資料，映像資料などを活用し，様々な視点から考察する。	・ 歴史的事象の背景を考察し，世界との関連の中で日本及びその属する地域の将来像を考え，自己の役割を追究する。 ・ 歴史上の人物の生き方について，時代背景などを踏まえて考察し，自己の生き方や役割，将来設計を考える。

（資料出所：文部科学省「高等学校キャリア教育の手引き」2011年11月）

（3）公民

① 教科の目標

・広い視野に立って、現代の社会について主体的に考察させ、理解を深めさせるとともに、人間としての在り方生き方についての自覚を育て、民主的、平和的な国家・社会の有為な形成者として必要な公民としての資質を養う。

（出典:文部科学省「高等学校学習指導要領」2009年3月）

② キャリア教育の取組み

・社会的・職業的に自立するためには、現代の社会について理解し、それに基づいて自らの生き方や社会の在り方について考察することが欠かせないことから、公民科の学習は、高校のキャリア教育において、重要な役割を担っている。

・自らの労働や生活につながるものとして経済社会について理解を深めさせることや主権者としての政治参加の重要性や裁判員としての司法参加の意義を考えさせ、社会の有意な形成者としての役割と責任を自覚させることは、この社会において「生きる力」につながる。

・具体的な雇用や労働問題、社会保障などの知識は、一人一人のキャリアを支える重要な基礎となる。卒業後の社会では、非正規雇用の増加など、労働者の職業生活を取り巻く環境が大きく変化していることから、労働保護立法や社会保障制度などを、一人一人の将来の生活に直接関わる生きたものとして伝えることが重要である。

・生徒自身が望む働き方やワーク・ライフ・バランスを考えたり、社会全体にとつてどのような雇用や社会保障の在り方が望ましいのかについて話し合ったりすることで、生徒のキャリア発達を促すことができる。

「基礎的・汎用的能力」の育成に特に関連する公民科の指導内容の例

人間関係形成・社会形成能力	自己理解・自己管理能力	課題対応能力	キャリアプランニング能力
・ 生命倫理や科学技術の利用など価値判断の分かれる問題について，ディベートさせる。 ・ 社会の課題について，グループで協力して，調査し発表させる。 ・ 裁判員が参加する模擬裁判のロールプレイを，役割分担して進行させる。 ・ 自分自身の悩みや体験を振り返り，先哲の思想を学ぶことを通して，他者と共に生きる倫理について，自覚を深めさせる。 ・ 経済活動や政治参加，ボランティア活動などを通して，社会形成に関わることができることを理解させる。	・ 若者を取り巻く雇用情勢とその背景について学ぶことを通して，自らが置かれている社会的な状況について，理解を深めさせる。 ・ 労働基準法をはじめとする労働法や相談機関について学び，労働現場で自らを守ることができる力を身に付けさせる。 ・ 消費者問題や金融について学び，トラブルを避けて，自らの家計を維持するための基礎知識を身に付けさせる。	・ 統計などの資料を読み取り，分析する力を身に付けさせる。 ・ 社会的事象に関する情報の検索の仕方を学び，複数の情報源からの情報を比較検討するなど，メディアリテラシーの能力を身に付けさせる。 ・ 社会調査の方法を学び，調査結果をグラフやインタビュー記録などの形で整理して，自ら情報を生産し表現する力を身に付けさせる。 ・ 調べた内容を，自らの考察を含めたレポートとしてまとめ，論理的に表現させる。	・ グローバル化が進む世界経済と日本経済の動向について理解させ，これからの産業の在り方，その中での様々な仕事の可能性について考えさせる。 ・ 社会保障制度や就労支援の取組などについて理解させ，自らのキャリアが思うように進まない場合もそれらの制度や支援を活用できるように準備させる。 ・ 労働や地域のボランティア活動への参加など，様々な社会への関わり方があることを理解させ，自らの生き方を考えさせる。 ・ 中小企業と大企業から成る日本経済の二重構造について理解させ，産業の在り方について考えさせるとともに，中小企業の可能性にも目を向けさせる。

（資料出所:文部科学省「高等学校キャリア教育の手引き」2011年11月）

（4）数学

① 教科の目標

・数学における基本的な概念や原理・法則の理解を深め、事象を数学的に考察し処理する能力を高め、数学的活動を通して創造性の基礎を培うとともに、数学的な見方や考え方のよさを認識し、それらを積極的に活用する態度を育てる。

（出典:文部科学省「高等学校学習指導要領」2009年3月）

②キャリア教育の取組み

・自ら課題を見出し、解決するための構想を立て、考察・処理し、その過程を振り返って得られた結果の意義を考えたり、それを発展させたりすることは、自己理解・自己管理能力の育成につながる。

・他者に分かりやすく論理的に伝え、議論することは、言語活動によるコミュニケーション能力や自己表現力の育成につながり、ひいては人間関係形成力・社会形成能力につながっていく。

「基礎的・汎用能力」の育成に特に関連する数学科の指導内容の例

人間関係形成・社会形成能力	自己理解・自己管理能力	課題対応能力	キャリアプランニング能力
新しい単元「データの分析」では他者の分析を聞くことにより多角的なものの見方や考え方を身に付けることができます。特に，コンピュータを使って多くのデータを分析する際に，他者と協力し合って効率よくデータを入力したり処理したりすること，お互いに意見を出し合ったりすることは，コミュニケーション・スキルの育成につながります。	数学的活動の多くは，問題解決の形で行われます。そこでは粘り強く思考する態度が必要とされ，成就感や達成感などを基にして自信を高め自尊感情を育む機会も生まれます。 自己肯定感の低さが指摘される中，「やればできる」と考えて行動する力は，このように粘り強く考え抜いて問題を解決する経験を通して得られると考えます。	様々な課題について，数量などその数学的側面に着目して課題を数学的に表現し，処理して得られた結果を元の課題に戻してその意味を考えます。このようにして，それぞれの課題に対して数学的視点に立って積極的に対応する能力を育てます。	数学では，身近な事象を体系付けるために，仮定や仮説もしくは公理・定義を準備した上で，数学的考察や演繹的論証を展開し一つの定理を得ます。また，一つの定理から新たな定理を生むことも学習過程において知ることができます。この過程は一歩ずつ階段を上っていくようなもので，このような一連の流れを学習することにより育成される視点は，自らのキャリアプランニングを形成していく際の重要な能力だと考えます。

（資料出所:文部科学省「高等学校キャリア教育の手引き」2011年11月）

（5）理科

① 教科の目標

・自然に対する関心や探究心を高め、観察、実験などを行い、科学的に探究する能力と態度を育てるとともに自然の事物・現象についての理解を深め、科学的な自然観を育成する。

（出典:文部科学省「高等学校学習指導要領」2009年3月）

② キャリア教育の取組み

・実験や観察などを通して、探究する能力や態度を身に付けることが求められている。新しい知識、情報・技術が社会のあらゆる領域での活動の基盤として飛躍的に重要性を増す現代社会では、新しい知識や情報の真偽を科学的に判断することや、筋道を立てて理解するのが必要な事態がしばしば起こる。生涯にわたって、主体的・創造的に生きていく上で、探究する能力や態度を身に付けることは、必要不可欠である。

「基礎的・汎用的能力」の育成に特に関連する理科の指導内容の例

人間関係形成・社会形成能力	自己理解・自己管理能力	課題対応能力	キャリアプランニング能力
・ 他者と協力・協働して，グループで観察・実験を行う。 ・ 実験レポート・観察記録の作成や発表により，互いの考えを理解し合う。	・ 一人一人の人間が，エネルギーや環境などについて考えて，主体的に行動することで，社会に貢献できることを理解し，知恵をもって行動する。 ・ 自己の役割を理解し，主体的に観察・実験に取り組む。	・ 課題に対して，探究的に活動し，科学的に分析し，真理を見いだそうとする。 ・ 情報を収集・整理して課題解決に活用する。 ・ グループでの協働作業がスムーズに進むように，作業の段取りを考え，適切に行動する。	・ 理科で学んだことや科学的な考え方が様々な職業や社会生活と関連していることを理解し，自らの生き方に生かす。 ・ 科学技術の発展と人間生活との関わりについて認識を深め，科学的に考えようとする。

（資料出典:文部科学省「高等学校キャリア教育の手引き」2011年11月）

（6）保健体育

① 教科の目標

・心と体を一体としてとらえ、健康・安全や運動についての理解と運動の合理的な実践を通して、生涯にわたって計画的に運動に親しむ資質や能力を育てるとともに、健康の保持増進のための実践力の育成と体力の向上を図り、明るく豊かで活力ある生活を営む態度を育てる。

（出典:文部科学省「高等学校学習指導要領」2009年3月）

② キャリア教育の取組み

・保健体育は、現在及び将来の生活を健康で活力に満ちた明るく豊かなものにすることを究極の目標としており、キャリア教育と密接に関連する指導内容がある。

・保健体育を通して育成する健康の保持増進のための実践力や体力は、一人一人のキャリア形成の基盤としても極めて重要である。

「基礎的・汎用的能力」の育成に特に関連する保健体育科の指導内容の例

科目／能力	人間関係形成・社会形成能力	自己理解・自己管理能力	課題対応能力	キャリアプランニング能力
科目体育	・　人にはそれぞれ違いがあることを認めた上で，仲間の演技のよさを指摘したり，仲間の技能の程度にかかわらず，課題を共有して互いに助け合ったり教えあったりする。 ・　話合いなどでグループの学習課題等についての意思決定をする際に，相手の感情に配慮して発言したり，仲間の意見に同意したりしてグループの意思決定に参画する。	・　体調や環境の変化に注意を払いながら運動を行う。 ・　けがを未然に防ぐために必要に応じて，危険の予測をしながら回避行動をとる。 ・　自己や仲間の健康を維持したり安全を保持したりする。	・　これまでの学習を踏まえて，目標に応じた自己やチームの課題を設定する。 ・　課題解決の過程を踏まえて，自己やチームの課題を見直す。 ・　仲間の技術的な課題や有効な練習方法の選択について指摘する。 ・　健康・安全を確保・維持するために，自己や仲間の体調に応じた活動の仕方や自己や仲間の危険を回避するための活動の仕方を選ぶ。	・　様々な運動において実生活，実社会の中で継続しやすい運動例を選ぶ。 ・　運動を生涯にわたって楽しむための自己に適した関わり方を見付ける。
科目保健	・　思春期における自分の行動への責任感や異性を尊重する態度，及び性に関する情報等への適切な対処などの必要性について考える。 ・　結婚生活を健康に過ごすために，良好な人間関係や家族や周りの人からの支援などの必要性について考える。	・　健康を保持増進するためには，一人一人が健康に関して深い認識をもち，自らの健康を適切に管理すること及び環境を改善していくことが重要であることを理解する。	・　生涯の各段階においての健康課題を見付け，自らこれに適切に対応したり，保健・医療制度等を活用したりするなどの解決方法を考える。	・　社会生活における健康の保持増進には，環境や食品，労働が深く関わっていること，それらと健康に関わる活動や対策について理解を深める。

（資料出所：文部科学省「高等学校キャリア教育の手引き」2011年11月）

（7）芸術

① 教科の目標

・芸術の幅広い活動を通して、生涯にわたり芸術を愛好する心情を育てるとともに、感性を高め、芸術の諸能力を伸ばし、豊かな情操を養う。

（出典：文部科学省「高等学校学習指導要領」2009年3月）

② キャリア教育の取組み

・作品を形作っている諸要素を知覚することや、そのよさを感じ取り、思考・判断し表現する力の育成を重視することで、各種能力の向上に結び付けることが重要である。

・価値観の多様化が進む現代社会においては、様々な他者を認めつつ、他者と協働していく力が必要になる。その中で、芸術の授業において解釈したことや自分なりに判断したことを基に批評し合うなど、諸活動を通して異なる価値観を共有することが大切である。

「基礎的・汎用的能力」の育成に特に関連する芸術科の指導内容の例

分野／能力	人間関係形成・社会形成能力	自己理解・自己管理能力	課題対応能力	キャリアプランニング能力
音楽	・ 音楽を形づくっている要素を知覚し，それらの働きを感受しながら表現を工夫して歌ったり，演奏したり，つくったりする。 ・ 楽曲の文化的，歴史的背景や表現の特徴を理解して鑑賞し，根拠をもって批評し合う。	・ 曲想を楽曲の背景と関わらせて感じ取り，イメージをもって歌ったり，演奏したりする。 ・ 楽曲の文化的，歴史的背景や表現の特徴を理解して鑑賞し，根拠をもって批評する。	・ 曲種に応じた発声の特徴や，楽器の音色や奏法の特徴を生かし，表現を工夫して歌ったり，演奏したりする。 ・ 音階を選んで旋律をつくったり，音素材の特徴を生かし構成を工夫してつくったりする。	・ 我が国や郷土の伝統音楽，アジア地域の諸民族の音楽を含む諸外国の様々な音楽の特徴を理解するとともに，多様性を感じ取り，鑑賞する。
美術	・ 感じ取ったことや考えたことなどについて，根拠を明らかにして自分の考えを述べたり，生徒同士で批評したりする。	・ 意図に応じて材料や用具の特性を生かすなど，表現を工夫する。 ・ 表現方法を工夫し，主題を追求したり，目的や計画を基に表現したりする。	・ 表現形式の特性を生かし，形，形体，色彩，構成などを工夫して創造的な表現の構想を練る。	・ 日本の美術の歴史や表現の特質，日本及び諸外国の美術文化について理解を深めるとともに，多様性を感じ取り，鑑賞する。

（資料出所：文部科学省「高等学校キャリア教育の手引き」2011年11月）

（８）外国語

① 教科の目標

・外国語を通じて、言語や文化に対する理解を深め、積極的にコミュニケーションを図ろうとする態度の育成を図り、情報や相手の意向などを理解したり自分の考えなどを表現したりする実践的コミュニケーション能力を養う。

（出典：文部科学省「高等学校学習指導要領」2009年3月）

② キャリア教育の取組み

・教育活動の中で、生徒たちが基礎的な知識・技能を習得し、これらを活用して、自ら課題を解決するために思考し、判断し、表現することは、すべて言語を通して行われる。その意味において、言語に関する技能そのものの習得を目的とする外国語科は、生徒たちのキャリア発達に不可欠な能力や態度を育成する重要な役割を担っている教科である。

・特に、人間関係・社会形成能力の重要な要素であるコミュニケーション能力の育成において、外国語科における学習が果たす役割は大きい。

・外国語の学習は、言語とその文化的な背景を学ぶことにより、自分を取り巻く社会や世界に目を向け、他者に対して積極的に関心を持ち交流していく意欲や能力を育むとともに、自分が住む社会や世界で自分自身をより良く生かしていくことができるよう、必要な情報や考え等を的確に理解したり適切に伝えたりする能力を育成するものである。これらのことは、キャリア教育が目指す社会的・職業的自立の基盤となる能力・態度であることはいうまでもない。

「基礎的・汎用的能力」の育成に特に関連する外国語科の言語活動の例

<table>
<tr><th>能力学年</th><th>人間関係形成・
社会形成能力</th><th>自己理解・
自己管理能力</th><th>課題対応能力</th><th>キャリア
プランニング能力</th></tr>
<tr><td>入学

第
一
学
年</td><td>「読むこと」
・　読んで理解した内容を聞き手に伝わるように，その反応を確かめながら音読する。</td><td>「話すこと」
・　相手に伝わるように表現しようとすることが，自分の考えを整理したり深めたりすることに役立つということに気付く。</td><td>「聞くこと」
・　事物に関する紹介や対話などを聞いて，情報と考え，事実と意見などを区別し整理しながら概要や要点を捉える。</td><td>「書くこと」
・　聞いたり読んだりしたことなどの概要や要点を書く際，平易な表現に置き換えたり，情報の順序を変えたりするなどして，読み手にわかりやすく表現する。</td></tr>
<tr><td rowspan="2">第
二
学
年

第
三
学
年
卒業</td><td>「話すこと」
・　情報や考えなどについて，ペアやグループで話し合うなどして結論を導いたり，論理的な話合いを通じて，合意できることやできないことについて共通の認識を得る。</td><td>「読むこと」
・　何のために読むのかをあらかじめ明らかにし，目的に応じた読み方を選択する。</td><td>「書くこと」
・　まとまりのある文章を書く際に，論理の一貫性，段落のつながりなどに注意するとともに，誰を対象にして書くのか，何のために書くのかなどの書く目的を明確に設定する。</td><td>「聞くこと」
・　キーワードやトピック・センテンスを的確に把握して内容の展開を理解するとともに，その後の展開を予想して聞く。</td></tr>
<tr><td colspan="4">上記の各活動をさらに発展させ，社会生活において活用できるようにする。</td></tr>
</table>

（資料出所：文部科学省「高等学校キャリア教育の手引き」2011年11月）

（9）家庭

① 教科の目標

・人間の生涯にわたる発達と生活の営みを総合的にとらえ、家族・家庭の意義、家族・家庭と社会とのかかわりについて理解させるとともに、生活に必要な知識と技術を習得させ、男女が協力して主体的に家庭や地域の生活を創造する能力と実践的な態度を育てる。

（出典：文部科学省「高等学校学習指導要領」2009年3月）

② キャリア教育の取組み

・家庭科は、人の生涯にわたる発達と生活の営みを総合的に捉え、生涯発達の視点に立ち自立した社会の一員として、生きる力を身に付けていくことを重視していることから、家庭科でねらう力とキャリア教育で付けたい力とは密接に関連している。

「基礎的・汎用的能力」の育成に特に関連する家庭科の指導内容の例

分野／能力	人間関係形成・社会形成能力	自己理解・自己管理能力	課題対応能力	キャリアプランニング能力
共通教科「家庭」『家庭基礎』『家庭総合』『生活デザイン』の共通分野	・ 生涯発達の視点で人の一生と青年期の自立，家族・家庭について考える。 ・ 子どもの発達，親の役割と保育，地域社会の果たす役割を理解する。 ・ 高齢期の生活を理解し，高齢者の自立生活を支える家族や社会の役割を考える。 ・ 共に支え合って生きていることを認識し，家庭や地域及び社会の一員として主体的に行動することの意義について考える。	・ 消費生活の現状と消費者問題や消費者の権利と責任を理解し，生涯を見通した経済計画について考える。 ・ ライフステージごとの衣食住の生活を科学的に理解し，持続可能な社会を目指して安全と環境に配慮して，主体的に衣食住を営むことができる。	・ ホームプロジェクトと学校家庭クラブにおいて，生活上の課題を設定し，解決方法を考え，実践することを通して，生活を科学的に探究する方法や問題解決の能力を身に付ける。	・ 持続可能な社会を目指したライフスタイルを確立して主体的に行動できるようにする。 ・ 生活設計を立て，生涯を見通した主体的な生活ができるようにする。

（資料出所：文部科学省「高等学校キャリア教育の手引き」2011年11月）

(10) 情報

① 教科の目標

・情報及び情報技術を活用するための知識と技能の習得を通して、情報に関する科学的な見方や考え方を養うとともに、社会の中で情報及び情報技術が果たしている役割や影響を理解させ、情報化の進展に主体的に対応できる能力と態度を育てる。

（出典:文部科学省「高等学校学習指導要領」2009年3月）

② キャリア教育の取組み

・高度に進展した情報社会においては、人間が生きていくための必須条件として、衣食住に情報が加わっているといっても過言ではない。

・多様化する情報源、短時間に大量に創造され、流通している情報、そして誰もが情報の発信者になれる時代を適切に生き抜くために必要な情報活用能力は、社会人として、そして職業人として欠かすことができない。

・技術革新に伴う新たな価値観、マナー、モラルを身に付ける情報モラルの教育も、人間関係形成・社会形成能力、自己理解・自己管理能力、課題対応能力などを育成するキャリア教育の一環と位置付けられる。

「基礎的・汎用的能力」の育成に特に関連する情報の指導内容の例

科目／能力	人間関係形成・社会形成能力	自己理解・自己管理能力	課題対応能力	キャリアプランニング能力
社会と情報	・ コミュニケーション手段の発達をその変遷と関連付けて理解させるとともに，通信サービスの特徴をコミュニケーションの形態との関わりで理解させる。 ・ 情報通信ネットワークの特性を踏まえ，効果的なコミュニケーションの方法を習得させるとともに，情報の受信及び発信時に配慮すべき事項を理解させる。	・ 多くの情報が公開され流通している現状を認識させるとともに，情報を保護することの必要性とそのための法規及び個人の責任を理解させる。	・ 情報機器や情報通信ネットワークなどを適切に活用して問題を解決する方法を習得させる。	・ 情報を分かりやすく表現し効率的に伝達するために，情報機器や素材を適切に選択し利用する方法を習得させる。 ・ 情報化が社会に及ぼす影響を理解させるとともに，望ましい情報社会の在り方と情報技術を適切に活用することの必要性を理解させる。
情報の科学	・ 社会の情報化が人間に果たす役割と及ぼす影響について理解させ，情報社会を構築する上での人間の役割を考えさせる	・ 情報社会の安全とそれを支える情報技術の活用を理解させ，情報社会の安全性を高めるために個人が果たす役割と責任を考えさせる。	・ 問題の発見，明確化，分析及び解決の方法を習得させ，問題解決の目的や状況に応じてこれらの方法を適切に選択することの重要性を考えさせる。 ・ 問題解決における情報通信ネットワークの活用方法を習得させ，情報を共有することの有用性を理解させる。 ・ 問題解決の過程と結果について評価し，改善することの意義や重要性を理解させる。	・ 情報システムとサービスについて，情報の流れや処理の仕組みと関連付けながら理解させ，それらの利用の在り方や社会生活に果たす役割と及ぼす影響を考えさせる。

（資料出所:文部科学省「高等学校キャリア教育の手引き」2011年11月）

(11) 産業社会と人間

① 科目の目標・内容等を決定する際の指針

・産業社会における自己の在り方生き方について考えさせ、社会に積極的に寄与し、生涯にわたって学習に取り組む意欲や態度を養うとともに、生徒の主体的な各教科・科目の選択に資するよう、就業体験等の体験的な学習や調査・研究などを通して、次のような事項について指導することに配慮するものとする。

ア 社会生活や職業生活に必要な基本的な能力や態度及び望ましい勤労観、職業観の育成

イ 我が国の産業の発展とそれがもたらした社会の変化についての考察

ウ 自己の将来の生き方や進路についての考察及び各教科・科目の履修計画の作成

（出典：文部科学省「高等学校学習指導要領」2009年3月）

② キャリア教育の取組み

・「産業社会と人間」は、すべての学校において、学校設定教科に関する科目として設けることができ、学校の実態等に応じて目標、内容、単位数などをさだめることができる（総合学科では、全ての生徒が原則として入学初年次に履修する）。

・「産業社会と人間」の学習内容は、知識として学ぶことと体験を通して学ぶこと、学んだことと自分との関わりを深く考察することなどから構成されているため、各教科に属する科目、総合的な学習の時間及び特別活動などとの関連を深めて学習することができる。

・「産業社会と人間」の指導は、ホームルーム担任を中心とした複数の教員によるティームティーチングで行われることが多く、学習内容によっては、専門的な知識を有する外部人材等を講師として活用している場面が見られる。このため、学習を通して多様な他者と関わる中で、自分の個性や興味・関心、職業理解や職業適性、人間としての在り方生き方、将来の進路などについて多面的に考察し、自分と社会とのつながりを認識することができる。

・「産業社会と人間」は、生徒のキャリア発達を促進する実践的な活動を多く包含していることから、職業的（進路）発達の段階が、「現実的探究・試行と社会的移行の準備の時期」とされる高等学校において、たいへん意義のある学習であり、正に、「授業としてのキャリア教育」を展開することができる。

「基礎的・汎用的能力」の育成に特に関連する「産業社会と人間」の指導内容の例

人間関係形成・社会形成能力	自己理解・自己管理能力	課題対応能力	キャリアプランニング能力
・ 自分と他者との違いを認識し，互いに分かり合おうとする。 ・ グループ学習等において，自分の役割を知り，協力することで円滑な人間関係を築く。 ・ 調査した結果をまとめ，共同して発表資料等を作成する。 ・ ポスターセッションなどで互いの意見を交換する。	・ 心理検査（性格検査，進路適性検査など）を活用して，自分を客観的に見つめる。また，経年比較により自分の成長を認識する。 ・ 自己を肯定的に捉え将来に向けて主体的に行動する。 ・ 「職業人インタビュー」など啓発的な体験活動を通じて，職業の実際や自分の適性等を知る。	・ 職業人インタビューにおいて調査対象者とコンタクトを取り，調査の日程や内容等を調整する。 ・ 課題解決のための道筋を立て，多様な他者の協力を得て課題解決を図る。 ・ 職業調査等を通じて得た情報を，図やグラフなどにまとめる。 ・ 多くの危機の事例を参照し，話合いなどによって危機管理能力を高める。	・ ３年間の履修計画を作成し，自分の興味・関心や将来と結び付いた学習計画を立案する。 ・ 様々な産業の種類や内容，課題などについて理解し，そこでの生活の様子に目を向ける。 ・ 様々なキャリアの体験を最終的な進路決定につなげる。 ・ キャリアプラン・ライフプランを作成し，発表会の実施や相互評価の工夫により，具体性を高める。

（資料出所：文部科学省「高等学校キャリア教育の手引き」2011年11月）

(12) 総合的な学習の時間

① 教科の目標

・横断的・総合的な学習や探究的な学習を通して、自ら課題を見付け、自ら学び、自ら考え、主体的に判断し、よりよく問題を解決する資質や能力を育成するとともに、学び方やものの考え方を身に付け、問題の解決や探究活動に主体的、創造的、協同的に取り組む態度を育て、自己の在り方生き方を考えることができるようにする。

（出典:文部科学省「高等学校学習指導要領」2009年3月）

② キャリア教育の取組み

・自己の在り方生き方を追究する高校の総合的な学習の時間は、高校における学習活動の中で最もキャリア教育の根幹に関わっている。

・総合的な学習の時間を通したキャリア教育の実践は、単なる職業体験や進学指導ではなく、個人としての在り方生き方や現代社会の諸課題に関わる社会の一員としての在り方生き方などについて考えることが大切である。

「基礎的・汎用的能力」の育成に関連する
総合的な学習の時間において育てようとする資質や能力及び態度の例

活動／能力	人間関係形成・社会形成能力	自己理解・自己管理能力	課題対応能力	キャリアプランニング能力
学習方法に関すること	・ 互いに意見を出し合い，見通しを確かめ合い，他者の意見を受け入れながら課題を探究する。	・ 複雑な問題状況を踏まえ適切な課題を設定する。	・ 目的に応じて情報を収集し整理・分析，帰納的・演繹（えんえき）的に考察して，論理的に表現する。	・ 仮説に基づいて計画を立案する。 ・ 学習の進め方を内省し，現在及び将来の生活に生かそうとする。
自分自身に関すること	・ 自らの行為について当事者意識と責任をもって意思決定する。	・ 自らの生活の在り方を見直し，改善に向けて日常的に実践する。 ・ 学ぶ意味や価値を考える。	・ 目標を明確にし，課題の解決に向けて計画的に着実に行動する。	・ 将来について具体的に考え，夢や希望をもつ。 ・ 自らの人生観・世界観・価値観を形成する。
他者や社会との関わりに関すること	・ 異なる意見や他者の考えを受け入れ，尊重し理解しようとする。 ・ 人間や国家，社会の在るべき姿について考える。	・ 課題の解決に向けて多様な社会活動に当事者意識をもって参画する。	・ 発表・討論の仕方やコミュニケーションの取り方を身に付ける。 ・ 互いを認め合い，協同して課題を解決する。	・ 社会や自然の中に生きる一員として，何をすべきか，どのようにすべきかを考える。

※『高等学校学習指導要領解説　総合的な学習の時間編』第６章第３節より一部引用

（資料出所:文部科学省「高等学校キャリア教育の手引き」2011年11月）

(13) 特別活動

① 教科の目標

・望ましい集団活動を通して、心身の調和のとれた発達と個性の伸長を図り、集団や社会の一員としてよりよい生活や人間関係を築こうとする自主的、実践的な態度を育てるとともに、人間としての在り方生き方についての自覚を深め、自己を生かす能力を養う。

（出典：文部科学省「高等学校学習指導要領」2009年3月）

② キャリア教育の取組み

・特別活動は、キャリア教育の中核的な実践の場である。

・ホームルーム活動における学業と進路は、生徒が主体的に取り組むキャリア教育の実践の場として重要な役割を果たす。

・ホームルーム活動のほかの内容もキャリア教育に深く関連し、生徒会活動や学校行事もキャリア教育として重要な内容を多く包含している。

「基礎的・汎用的能力」の育成に特に関連する特別活動の指導内容の例

活動／能力	人間関係形成・社会形成能力	自己理解・自己管理能力	課題対応能力	キャリアプランニング能力
ホームルーム活動	・ ホームルーム内の組織づくりと自主的な活動 ・ 男女相互の理解と協力 ・ コミュニケーション能力の育成と人間関係の確立	・ 青年期の悩みや課題とその解決 ・ 社会生活における役割の自覚と自己責任 ・ 心身の健康と健全な生活態度や規律ある習慣の確立	・ ホームルームや学校における生活上の諸問題の解決 ・ 学校における多様な集団の生活の向上 ・ 進路適性の理解と進路情報の活用	・ ボランティア活動の意義の理解と参画 ・ 学ぶことと働くことの意義の理解 ・ 主体的な学習態度の確立と学校図書館の利用 ・ 主体的な進路の選択決定と将来設計
生徒会活動	・ 学校生活における規律とよき校風の確立のための活動 ・ 望ましい人間関係を深めるための活動 ・ 異年齢集団による交流	・ 生徒の教養や情操の向上のための活動 ・ 学校行事への協力	・ 身近な問題の解決を図るための活動 ・ 生徒の諸活動についての連絡調整	・ 環境の保全や美化のための活動 ・ 生徒会の計画や運営 ・ ボランティア活動などの社会参画
学校行事	・ 共に助け合って生きることの喜びの体得 ・ 郊外における集団活動を通して，教師と生徒及び生徒相互の人間的な触れ合いや信頼関係の大切さの経験	・ 安全な行動や規律ある集団行動の体得 ・ 責任感や連帯感の涵養（かん） ・ 生涯にわたり，文化や芸術に親しむための豊かな情操の涵養	・ 集団のきまりや社会生活上のルール，公衆道徳などの体験 ・ 前年度の計画の見直しと課題解決のための立案	・ 勤労の尊さや創造することの喜びの体得 ・ 就業体験などの職業観の形成や進路の選択決定などに資する体験 ・ ボランティアなどの社会奉仕の精神を養う体験

（資料出所：文部科学省「高等学校キャリア教育の手引き」2011年11月）

2　ホームルーム活動におけるキャリア教育の実践例

・テーマ：自分を知る(職業に関する自分の興味・関心を知り、その職業を見据えた進路決定ができるようになる)

・内容：職業レディネス・テスト(ＶＲＴテスト)の実施と結果分析、生徒へのフィードバックの方法

（1）　職業レディネス・テストの概要

・基礎的志向性(対情報、対人、対物)と職業志向性(６つの職業領域に対する興味の程度と自信度)を測ることにより、生徒の職業に対する準備度(レディネス)を把握し、生徒が職業に対する自分のイメージをチェックしたり、進路選択への動機付けを促すことができる。

・興味と自信との関係、日常の興味・関心を客観的に図式化し、総合的に解釈することで、進路を探索する方向性をとらえることができる。

・回答者が自分のペースで実施する紙筆検査であり、若年者に対して、自己理解を深めさせ、職業選択に対する考え方を学習させる教材である。

・対象者は、中学生・高校生・専門学校生・短大生・大学生・職業訓練校生・職業相談機関等

・所要時間は、実施が40～45分、採点も含めると60分程度。

(参考:雇用問題研究会「職業レディネス・テスト[第３版]」を基に作成)

（2）テストの構成

・「職業興味」を測定するＡ検査、「基礎的志向性」を測定するＢ検査、「職務遂行の自信度」を測定するＣ検査からなる。



(出典：一般社団法人雇用問題研究会ＨＰ)

（3）Ａ検査の測定内容

・Ａ検査は、職業・仕事の内容を記述した54項目の質問からなり、各質問に対して、「やりたい」、「どちらともいえない」、「やりたくない」の３段階で答える。生徒の興味が６つの職業領域において、どういった傾向を示しているかを測定する。

- **現実的職業領域　〔Realistic Scale〕**
  機械や物体を対象とする具体的で実際的な仕事や活動の領域
- **研究的職業領域　〔Investigative Scale〕**
  研究や調査のような研究的、探索的な仕事や活動の領域
- **芸術的職業領域　〔Artistic Scale〕**
  音楽、美術、文学等を対象とするような仕事や活動の領域
- **社会的職業領域　〔Social Scale〕**
  人と接したり、人に奉仕したりする仕事や活動の領域
- **企業的職業領域　〔Enterprising Scale〕**
  企画・立案したり、組織の運営や経営等の仕事や活動の領域
- **慣習的職業領域　〔Conventional Scale〕**
  定まった方式や規則、習慣を重視したり、それに従って行うような仕事や活動の領域

(出典：一般社団法人雇用問題研究会ＨＰ)

（4）B検査の測定内容

・日常の生活行動について記述した64項目からなり、各質問に対して、「あてはまる」、「あてはまらない」で答える。生徒の基礎的志向性が職業への興味・関心の基礎となる、「対情報」、「対人」、「対物」の３つの志向性において、どういった傾向があるのかを測定する。

- **対情報関係志向　〔Data Orientation〕**
  各種の知識、情報、概念などを取り扱うことに対して、個人の諸特性が方向づけられていることを示す。
- **対人関係志向　〔People Orientation〕**
  主として人に直接かかわっていくような活動に対して、個人の諸特性が方向づけられていることを示す。
- **対物関係志向　〔Thing Orientation〕**
  直接、機械や道具、装置などのいわゆるモノを取り扱うことに対して、個人の諸特性が方向づけられていることを示す。

（出典：一般社団法人雇用問題研究会ＨＰ）

（5） C検査の測定内容

・A検査と同一の54項目の質問で構成されており、各質問に対して、「自信がある」、「どちらともいえない」、「自信がない」の３段階で答える。生徒の職務遂行の自信度を、A検査と同じ６つの職業領域において、どういった傾向を示しているのかを測定する。

（6） 結果の解釈

① 得点の意味

・パーセンタイル順位：個人の尺度ごとの粗点が、基準集団の中で、どのあたりに位置づけられるかを明らかにすることによって、個人の特徴を表示しようとするもの。

・ある個人のパーセンタイル順位が70であることは、基準集団を構成している人の70％は、その個人の得点より低い方に分布していることを示す(換算表は中学生・高校生別、男女別になっている)。

② 結果解釈の一般的な留意点

・得点は、測定上の誤差も考慮して、おおむね「強い」「普通」「弱い」の３段階で解釈する。

・プロフィール全体の形状の特徴をみる。得点が高いことが望ましいわけではない。むしろ、プロフィールに山と谷がはっきりしていることがポイントである。山と谷がはっきりしていることは、興味や志向性が分化していることを意味しており、それだけ職業への準備性ができていると解釈される。

・検査の得点が全般的に低い場合、無理にパーセンタイル順位の高い領域をみつけて解釈をしない。むしろ、個々の質問項目に戻り、「やりたい」あるいは「どちらともいえない」という回答がみられた項目に着目したり、「やりたくない」という回答が多くなった理由を考えさせたりする。

・この検査の結果をストレートに適職や適性のある職業と結び付けて解釈しない。

・結果のフィードバックに際しては、受検者へきちんと情報提供し、受検者が納得できるような解釈と説明の提供を行う。

・結果の解釈を通して、職業情報の探索を促したり、進路選択への関心を高めるように援助をする。

・検査結果で選択すべき進路を決定するのではなく、個々の生徒が自分なりに結果について考え、選択の可能性を広げるようにする。

・適性検査の結果や進路希望調査等、他の資料と関連付けて結果を解釈する。この検査は職業興味の特徴を明らかにするが、生徒をよりよく理解するためには、本検査の結果に加えて、能力の側面や本人の希望等、様々な他の特徴についても総合して解釈すべきである。

・高校生は、心身ともに発達の途上にあり、職業興味は変化することを念頭に置いて解釈し、指導する。検査の結果は、実施した時を点での興味を切り取って示した結果に過ぎない。特に、高校生は心身ともに大きく変化する時期であり、経験や成長に伴って興味も変化するであろうことを前提として解釈すべきである。

（参考:労働政策研究・研修機構「職業レディネス・テスト[第３版]手引」2006年7月を基に作成）

③ 職業レディネス・テストを活用したキャリア教育の実践

・結果の解釈を通して、職業について調べることや職業情報の探索を促したり、進路選択への関心を高めるように援助をする。

・テスト結果から選択すべき進路を決定するのではなく、個々の生徒が自分なりに結果について考え、選択の可能性を広げるように指導する。

・適性検査の結果や進路希望調査等、他の資料と関連付けて結果を解釈する。このテストは職業興味の特徴を明らかにするが、生徒をよりよく理解するためには、テストの結果に加えて、能力の側面や本人の希望等、様々な他の特徴についても総合的に勘案して解釈することが求められる。

（参考:労働政策研究・研修機構「職業レディネス・テスト[第３版]手引」2006 年 7 月を基に作成）